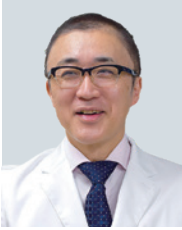




責任者からのメッセージ

小児科
教授 盛武 浩



「なぜ小児科を選んだのですか？」とよく質問を受けます。私の場合、“小児医療は「曙の医学」である”と学生実習中に先輩小児科医師がおっ

しゃった素敵なフレーズが胸に突き刺さり、小児科医になることを決めました。小児医療は、根治を目指し全力投球でき、その結果、病気を克服した子ども達が成人となり、少子化で苦しむ日本の救世主として社会へ羽ばたく姿をみられる喜びを実感でき、まさに「曙の医学」です。また、細分化された現代医療の中で「全身を診る」という学問的にも非常に満足度が高い分野です。

共に宮崎の小児医療を担ってくれる、志の高い若い先生をお待ちしています。

プログラムの特徴

本プログラムは、主に宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院、県立日南病院、都城市郡医師会病院、国立病院機構都城医療センター、国立病院機構宮崎病院の6つの病院で研修することで、予防接種や健診を含む一次医療から三次医療まで幅広い知識と診療技能を偏りなく習得することが可能です。それぞれの病院で異なるタイプの医療を必要とする診療を経験し、指導・教育を受けることで、小児科専門医取得のための到達度を十分に満たすことができます。また、宮崎大学医学部附属病院には宮崎県下の症例が集約されており、各診療グループでの専門診療を行っていますが、グループ間の垣根がなく、それぞれの専門分野の知識や技術を活かし、1人の患者さんについて複数のグループで協力しながら適切な医療を提供する体制が構築されていることは、自慢できる特徴といえます。

連携施設名等

	施設名	指導医	専門分野・特徴
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	盛武 浩 教授、他14名	小児医としてヒトの成長と発達をままもり援助するという心構えを確立する。小児科学のすべての領域をくまなく経験し、小児科医として必須の知識と診療技能を習得する。
連携施設	県立宮崎病院、県立日南病院、都城市郡医師会病院、国立病院機構 都城医療センター、国立病院機構 宮崎病院		
関連施設	県立延岡病院、国立病院機構 宮崎東病院、都農町国民健康保険病院、宮崎市総合発達支援センター、愛生会日南病院、小林市立病院、高千穂町国民健康保険病院、京都府立医科大学病院、京都市立病院		

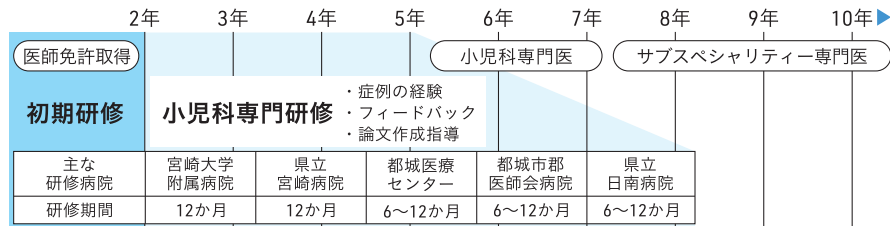
取得可能な専門医資格および技能

小児科医として必要な小児の診察、採血や腰椎穿刺、骨髄穿刺などの一般的な手技を取得することができます。また、地域の一般病院の研修では、予防接種や検診について、各種専門領域の研修では、心臓超音波

検査、心臓カテーテル検査、腎泌尿器超音波検査、腎生検、脳波検査、内分泌負荷試験、骨髄検査の評価、食物負荷試験などを学ぶことができます。3年間の研修の後、小児科専門医を取得可能です。

専門医取得までのタイムスケジュール

専攻医登録後、それぞれの研修病院を半年から1年間研修することで、小児の主要な症候や新生児から各種専門領域の疾患を経験し、3年経過したのちに小児科専門医試験を受験することができます。受験に際しては論文投稿が必要であり、研修中に県警した症例などをともに指導医の指導のもと論文を作成します。



プログラム達成目標

専攻医は3年間の研修によって、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることを目指します。宮崎大学医学部附属病院で研修を開始し、小児科の基本的な考え方や手技、感染免疫・アレルギー・膠原病・内分泌代謝・血液腫瘍・腎泌尿器・循環器・

神経筋・新生児医療などの各専門領域の研修を行い、2年目以降は各関連病院で小児の急性疾患、慢性疾患、地域医療を6か月間から1年間それぞれ担当医として研修します。3年間を通じ外来での乳児健康診査、予防接種などの小児保健・社会医学の研修と救急疾患などすべての領域を研修します。

主要症例名と実績数

肺炎や気管支炎、急性腸炎などの小児の一般的な疾病に加え、経験できる各種専門領域の主要な症例と年間の実績数は右の通りです。

血液・腫瘍領域
神経・筋領域
循環器領域
腎・泌尿器領域

免疫・膠原病・アレルギー領域
内分泌・代謝領域
新生児領域 (NICU)

白血病(6人)、悪性リンパ腫(2人)、固形腫瘍(5人)など
てんかん(30人)、脳炎・脳症(10人)、発達障害(60人)など
先天性心疾患(80人)、心筋疾患(10人)、不整脈(5人)、難治性川崎病(5人)など
ネフローゼ症候群(10人)、慢性糸球体腎炎(20人)、慢性腎不全(2人)、急性腎機能障害(5人)、先天性腎尿路異常(20人)など
免疫不全症(2人)、膠原病(5人)、アレルギー(10人)など
低身長(30人)、糖尿病(5人)、甲状腺疾患(10人)など
超低出生体重児(30人)、人工呼吸器管理(60人)、新生児手術(40人)など

週間スケジュール（宮崎大学医学部附属病院の例）

時間	月	火	水	木	金	土・日
～ 8:30	受持患者情報の把握					週末日直 (2/月)
8:30～ 9:00	抄読会・研究会報告	入退院カンファレンス	ミニレクチャー リサーチミーティング	症例検討会	入退院カンファレンス	
9:00～ 9:30	グループカンファレンス グループ回診					
9:30～12:00	病棟	病棟	病棟・外来	病棟・外来	病棟	合同勉強会 (年3回)
12:00～13:00					薬理セミナー（不定期）	
13:00～17:30	病棟 学生・初期研修医の指導 血液腫瘍カンファ 腎泌尿器カンファ	病棟 学生・初期研修医の指導 全体カンファおよび 総回診	病棟 学生・初期研修医の指導 代謝・内分泌カンファ 神経カンファ	病棟 学生・初期研修医の指導 ハンズオンセミナー 学生症例発表（隔週）	病棟 学生・初期研修医の指導	
17:00～17:30	患者申し送り					
17:00～17:30					ふりかえり（1/月）	

※ 小児泌尿器合同カンファ(1/月)、循環器外科合同カンファ(1～2/月)を月曜日に開催

指導医からのメッセージ



准教授 此元 隆雄

宮崎大学小児科は、県北部の県立延岡病院、西部の都城医療センター、都城医師会病院、南部の県立日南病院、中央の県立宮崎病院へ医師の派遣を行い連携をとりながら宮崎県全域の小児医療の充実と発展のために日々頑張っています。専攻医は大学病院と地域の中核病院などで研修をすること
で小児科専門医の取得が可能です。専攻医の指導体制は、中堅医師が直接指導を行い、さらに各専門分野に関してはそれぞれのサブスペシャティーの専門医・指導医とともに診断・治療行うことで最新の知見を学ぶことができます。女性医師も多数在籍しており、女性医師の様々なライフプランを医局全体で応援しています。小児医療に対する情熱をお持ちの方は、出身地、出身大学、男女問わず、いつでもご連絡ください。

先輩からのメッセージ



専攻医 芝原 貴哉

私は宮崎大学医学部に入学して実習をさせて頂く中で、小児科の先生方がとても指導熱心で、学問としても興味をもつようになり、何より子どもたちの為に尽くせるなら生涯に渡って頑張れると思います、小児科医になることを決めました。小児科は疾患分野も多岐に渡り難しいことも多いですが、どの先生方も日々の診療で困ったときには何でも相談に乗ってくださいます。また時にはつらく悲しい場面に直面することもあります、そんな中で病氣と向き合っている子どもたちの笑顔にふれると、自分たちももっと頑張ろうと元気をもらえます。そんなやりがいのある小児科で子どもたちのために一緒に頑張ってみませんか。ぜひお待ちしております。



助教 高橋 雅子

こどもは好きですか？臨床医はどの分野でも修練期間があります。時に辛いこと、苦しいこともあるかもしれませんが。小児科医の醍醐味はどんな時でもこども達から元気をもらえることです。指導医もまた、こども達からいつも元気と若さをもらってあります。こどもにパワーをもらった大人はなんと、自然に優しく笑顔になれます。つまり職場の雰囲気良すぎます。気軽に相談できます。みんなが自然に多様な働き方を心から受け入れています。私はその雰囲気に導かれてこの世界の窓をたたき早15年。年々さらに良くなる医局の雰囲気を体感しています。さあ、あなたも私たちと一緒に明るく優しい小児科医になって、こども達の未来を支えていきませんか？



専攻医 矢野 壮真

私が宮崎大学小児科を選んだ理由は、温かな医局の雰囲気と、治療に励みながらも笑顔に向けてくれる子どもたちに惹かれたからです。小児科には多彩な疾患があり、初めて触れる領域も多いと思いますが、指導医の先生方が都度丁寧にサポートしてくださるため、不安やストレスを抱えることなく診療に集中できます。また若手同士で意見を交わし合える風通しのよい環境も魅力のひとつです。困難な場面に直面することもあります、病と闘う子どもたちのひたむきな姿に、むしろ力を貰います。幅広い症例を学べる充実したサポート体制のもと、子ども達と触れ合いながら一緒に成長していきましょう。

お問い合わせ先

担当：此元 隆雄

T E L：0985-85-0989

F A X：0985-85-2403

e-mail：konomoto@med.miyazaki-u.ac.jp

小児科HP

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/pediatrics/

